

2024年3月

No. 75

書道教室 薬院 一凛  
sho-do ICHIRIN

継続は力なり



月刊  
一凛



夢は美し〜がよい

希望は高きがよい

夢も希望も捨てなければ

必ず近づいてくる

目的は高きがよいそのための

一里塚として目標を定めよう

〜そのために時を

刻まがよい



月刊一凛 No.75 〈2024年3月〉

《競書審査員》佐々木峯雲

《発行》書道教室 一凛 薬院

《制作》野口昌芳(NS)



書道教室 薬院 一凛  
sho-do ICHIRIN

〒810-0022 福岡市中央区薬院3-7-25 原ビル2F  
TEL / 092-791-7251 FAX / 092-791-7786  
<https://www.shodo-ichirin.com/>

# 墨を擦る

文・岡田 雄希

花屋の爺さん  
夢に見る  
売ったお花の  
しやわせと

峰雲

花屋の爺さん夢に見る、売ったお花のしやわせを。

花屋の爺さん 花売りに、  
お花は町でみな売れた。  
花屋の爺さん さみしいな、  
育てたお花がみな売れた。  
花屋の爺さん 日が暮れりや、  
ぼつり一人で小舎のなか。  
花屋の爺さん 夢を見る、  
売ったお花のしやわせを。

金子みすゞの詩より

売ったお花がしあわせなのは、どのよ  
うな時でしょうか。それは、花を買った  
人が花を見て、「きれいだなあ」と、しあ  
わせな気持ちになってくれた時です。花  
屋のおじさんが売った花のしあわせを  
を想うのは、まず、花を買ってくれた人  
が花を見て、しあわせな気持ちになっ  
てくれた時です。花だけがしあわせ、とい  
うことはないのですね。花にとっては、花  
を見た人がしあわせになってくれな  
い、花のしあわせはないのですから。

ウエブサイトより引用 編集

お気に入りのラジオ番組で「夏と冬  
どちらが好きですか？」というアン  
ケートがありました。私はどちらの季  
節も私なりに享受して楽しんでいま

ので、どちらが好きかという問におお  
に迷いました。強いて言うならば「冬以  
外」です。第一の理由は、「春・夏・秋」は  
花の美しさを十二分に楽しめる季節だ  
からです。勿論冬に楽しめる花もある  
のですが、花の無い殺風景な冬のペ  
ランダを見つめる度に「花が恋しいなあ」  
「かわいい花をたくさん植えてペランダ  
を賑やかにしたいなあ」と春の訪れを心  
待ちにしています。

当然のことですがどんな花も早晩枯  
れて朽ち果ててしまいます。たくさん  
癒しをくれ豊かな気持ちにしてくれた  
花たちを廃棄する時はいつも辛い気持  
ちになります。そんな時「今までありが  
とうねえ、ありがとうねえ。」と幸せを  
くれたお花を何度も呪文のように唱えて  
ゴミ箱の蓋を閉めています。

温かくなり、色とりどり鮮やかな花  
に出会う季節がやってきました。花だけ  
でなく「花屋の爺さん」と同じような気  
持ちで花を育ててくれた方への感謝も  
忘れず、今年も、たくさん幸せを花か  
ら頂き日々の生活を豊かにしていけれ  
ばと思っています。

佐々木 峰雲

## 大

学の同級生たちが食の宝庫福岡市に大学して遊  
びにきた。会社を定年退職する以前は東京への出張  
が多く、仲が良かった同級生とは定期的に酒を酌み交わし  
ていた。そのうちの一人が福岡市には「遊び人の岡田くんが  
いるから、みんなで遊びに行こう！」を合言葉に6人が来福  
した。

全員、65歳を過ぎたシニ  
ア世代なので自然と「病氣  
自慢」となった。「オレはこ  
んな大病をした」とか「現在  
もこんな治療をしている」  
とマウントを取ろうとする  
のだが、脳梗塞二回心筋梗  
塞一回の私の病歴を聞いて、  
ほぼ全員が息をのむよ  
うにしていたのには笑って  
しまった。

ただし今回は「博多の食  
を楽しむ」という目的の会  
だったので、全員で鯨飲馬  
食の同窓会となった。太宰府天満宮へ行き参拝もそこそこ  
に梅ヶ枝餅の名店巡りをはじめ、有名ラーメン・うどん店の  
はしご、魚がおいしい居酒屋めぐりなどなど。東京をはじめ  
とした地元に戻って、友人たちが「病死」するのではないかと心配するほど食べまくっていた。

一方で、自らの大病を振り返り健康に過ごしている現在の

## 平仮名を 書ける喜び

自分の体に感謝と喜びを感じた。十数年前になるが、一度目の  
脳梗塞を発症した時の記憶もよみがえった。早朝に部下が書い  
た原稿をパソコンで手直ししていた時だった。右手の小指の動き  
がおかしい。「待てよ」と手元に置いていたメモ帳に字を書きま  
くった。その時点で漢字は直線が多いため何とか書けたが、平仮  
名が書けなかった。時間が経つにつれパソコンのマウスもろくに動  
かせなくなり入院した。

経過は一凜の佐々木先  
生にも話したことがある  
が「もし体が元通りになっ  
たら、書を学びに行こう」  
と、集中治療室で暫ったこ  
とが教室との御縁につな  
がった。今は、年金の足し  
になればと始めた副業が  
忙しくなり教室への足が  
遠のいているが、いつかは  
復帰を目論んでいる。

教室の皆さんに訴えた

使つて筆をあやつることができるようにも健康ゆえなのだ。平仮名  
を書く時に曲線を描き出せる細やかな手の動きは、いくらAI  
が発達しても再現できないと思っている。できたとしても、コン  
ピューターをはじめ人工知能に膨大な計算を強いるはずだ。  
時々、鉛筆やボールペンでメモ用紙に平仮名を書いてみる。巧み  
に曲線を描く喜びにひたることができる。

おかだ・ゆうき  
昭和33年3月20日、  
北九州市生まれ。平成  
23年12月に一凜に入  
門。趣味は自転車と  
酒を飲むこと。酒は誘  
われたら断らないが  
モットー。

## 3月分課題

何気ない日常の、何気ないやりとり。

さふらふ 22

拝啓 浅春の候

2024年のスタートを切っているソフトバンクホークス。オフシーズンは選手の入れ替えがいっつも目立つ印象を受けました。

ホークスファンの佐々木先生、今のチーム体制をどう感じていらっしゃいますか？

古くは、落合博光、広沢克己、清原和博、江藤智、小笠原道大、村田修一、最近では丸佳浩。これらはユニフォームを見るだけでも嫌な球団がこれまで“金にものを言わせて”FAで獲得した28人の一部のリストです。「節操なく何でも欲しがる球団だ」とその行動にあきれ果てるばかり。

昨シーズのあたりからホークスのフロントに対しても「ブルー・タス、お前もか!」という思いです。昨年は7年50億円近くで近藤健介を獲得。今年は外国人が軒並み期待はずれで、何が何でも右の強打者が欲しくて山川穂高を4年16億円近くで獲得してしまいました。大砲候補なら井上朋也やリチャードがいるじゃないかと言いたくなります。もっと腰を据えて生え抜きの選手を育てることに心血を注がないのかなと思えてなりません。

私は野球同様、大相撲も楽しみに観ています。私は元横綱白鵬は好きではありませんでした。何故かならば、時々立ち合いで“張り手”や“猫騙し(相手の目をつぶらせる奇襲作戦)”を使う姿に美しさを感じないからです。横綱にあるまじき姑息な立ち合いに「勝つためだったらなんでも有りかよ」と詰め寄りたくなりました。最近のホークスのフロントに対しても同じ感情を覚えます。選手やファンの気持ちなど置き去りにしてでも、勝利至上主義に突っ走っているようにしか思えてなりません。

今季「美破」のスローガンを掲げた小久保ホークスに期待はしつつも、万一、山川選手の活躍で優勝すればフロントの英断の正当性を証明することになり兼ねません。今年は、なんとも複雑な気持ちで応援することになりそうですが、四の五の言わずに小久保新監督の「美しい野球」を求める采配を篤と拝見することにしましょう。



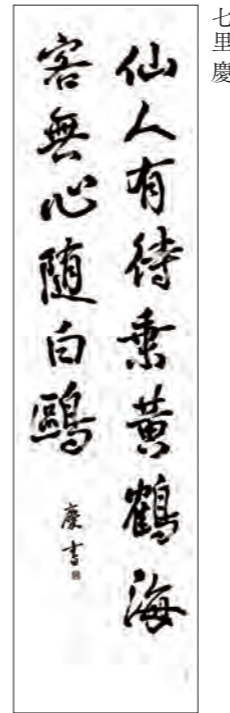
COVER ART Miki Araki

3月分課題は4月10日(水)が提出期限予定です。  
諦めることなく、コツコツと努力することが何より大切です。  
みなさん、今月も頑張りましょう。

硬筆	かな	漢字
 この園に散りくる梅を袖に受けて遊びて後には花はちるとも (良寛) 久方の光のとけき春の日に静心なく花の散るらむ (紀友則) 世の中はさくららの花となりけり (良寛)	 六段以上	 六段以上(楷書)
 10級~1級	 10級~1級	 10級~1級(楷書)

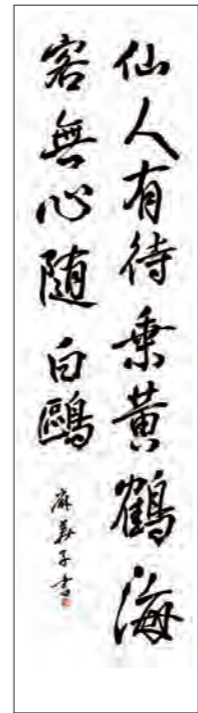
- 配布された手本に間違いがないか、上記課題一覧を必ず確認してください。
- 硬筆の添削に関して  
初段以上の方の添削は毎月1回限りとします。  
十分練習を重ねて仕上げた作品を添削依頼してください。

今月の硬筆課題は初段以上も楷書につき  
**六段以上の方の添削は不要**です。



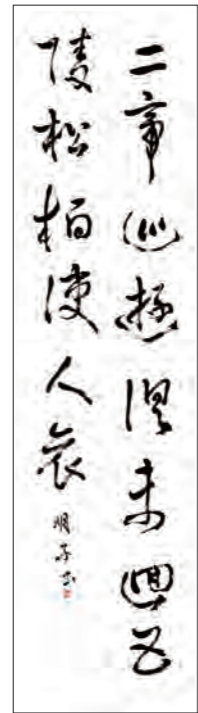
七里慶

全体的に思い切りよく伸び伸びと書けている。メリハリの効いた筆圧により各線に躍動感がある。ただ、各字の滲みが気になる。



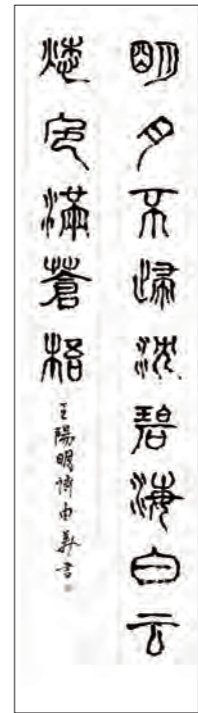
井島麻美子

一字一字集中して丁寧に仕上げている。終筆も粘り強く丁寧に書けている。前半「乗黄」、後半「客無」あたりでカスレが欲しかった。



小田明子

全体的に力強さが出せて躍動感があり堂々とした仕上がり。終筆はいずれの字も最後まで粘り強く丁寧に美しい線が出せている。



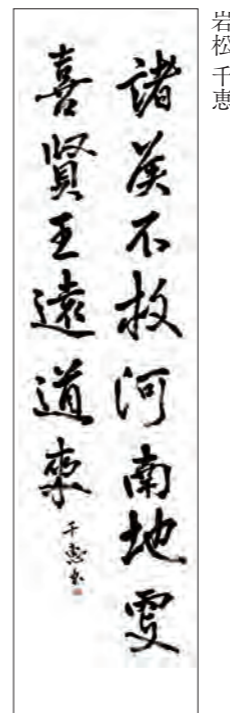
光山由美

篆書体の運筆の要領を得てきた。各字共程よく濃淡が出せて躍動感があり美しい。前半「明月」、後半「愁色」に濃淡の対比が欲しかった。



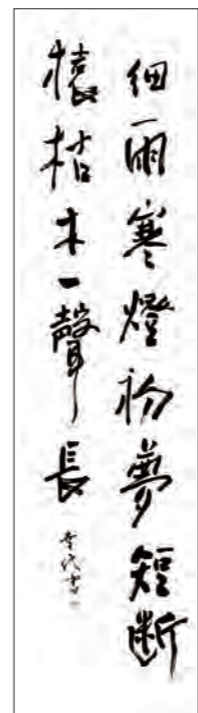
田籠佳代子

各連綿の字が美しく流れていて可。運筆もメリハリが効いていて各線抑揚を上手く出せている。願わくは、もう少し線に濃淡が欲しかった。



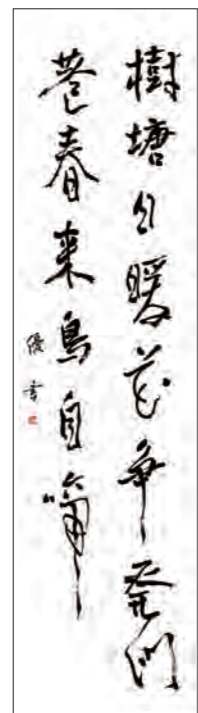
岩松千恵

前半「諸候不」あたりまでは慎重になりやや重さを感じるが、それ以降はリズム良い運筆で程よくカスレも出せている。後半も全体的にリズム良い運筆で書けている。「河」を除いて終筆も丁寧で可。



山田幸代

各字運筆にメリハリが効いているので全体的に躍動感がある仕上がり。終筆も全体的に丁寧。「断」「猿」「聲」は流れも美しい。



友岡優

力身無い運筆で流れも可。ただ、前半はややカスレ不足でやや重さを感じるが、「発門～」は程よいカスレが効いて躍動感が出せている。



石川あゆ子

前半はリズム良く、濃淡も上手出せており、「発門」の連綿は思い切りよく書けている。後半「来」「自」の最終画の終筆が重くなり、「啼」旁部後半の線が単調な線になった。



片山道子

前半の大文字は迫力が出せているが滲みが気になる。「半」の縦画部後半が単調で物足りないのもう少し粘り欲しい。後半の細字は力身なくリズム良く書けている。